

アジア養蜂研究協会



研究施設紹介 (6)

フィリピン大学ロスバニョス校

首都マニラの東方、ラゲーナ市にある同校は1909年の農学科創立以来の農科系大学としての歴史を誇るが、1972年には文理学部が新たに加えられるなど、現在は農学部、文理学部、経済経営学部、農工学部、林学部、人間生態学部、獣医学部と自然科学、社会科学、人文科学の各分野合わせて7学部、教員1,400名、学生9,000名を擁する総合大学となっている。

最先端の学術追求のため20余りの研究施設が各学部部に併設され、年間約千件の研究プロジェクトが進められている。ミラクルライスで有名な国際イネ研究所 (IRRI) も同校キャンパス内にある。

また最新の研究成果の現地への応用をすすめる普及教育事業も長い伝統がある。実地研究調査、各種教育研修やセミナーの開催、ビデオ、スライド、ポスターなど教育器材、資料の制作と研修関連器具の供給、書籍等の発行、広報事業など多様に行われており、フィリピン大学ロスバニョス校の伝統である友愛と奉仕の精神を

もって、大学のスタッフはこれらの事業に当たっている。

これらの理念に沿って1989年に文理学部生物科学研究所に養蜂プログラム技術研究室が置かれた。ミツバチに関する学内の多種のプロジェクト、関連分野の研究、および国内各地での養蜂普及事業との相互協力と調整を効果的にすすめる養蜂プログラムの運営とはちみつ、花粉等のミツバチ生産物の検査、分析研究を行っている。

同研究室には学部を超えて以下の多様な研究者が所属している。

Dr. Pacifico C. Payawal (花粉学)

Dr. Cleofas R. Cervancia

(花粉媒介生物学, ミツバチ病理学)

Dr. Rita P. Laude (ミツバチ遺伝学)

Raymondo M. Lucero, MSc.

(森林生態学, 養蜂実技)

Merly F. Forbes, B. S. (研究員)

Aida L. Manimtim, B. S. (研究員)

Rosalina Tandang, B. S. (技術員)

フィリピン養蜂家ネットワーク基金の各地方責任者もアドバイザー養蜂家として養蜂プログラムの運営に参加している。

Mr. Joel F. Magsaysay (ルソン地方)

Mr. Alberto Bartolata (ビサヤ地方)

Mr. Epifanio Loyola, Jr. (ミンダナオ地方)



図 ロスバニョス校生物科学研究所全景